○中山耕一委員長　続いて、二十一世紀クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。吉川寛康委員。

○吉川寛康委員　通告に従い、県立学校施設整備費についてお伺いいたします。

今回の補正予算に、県立学校施設整備費八千五百万円が債務負担行為として設定されております。これは、多様な学びのニーズに対応する新たな全日制の県立学校を三年後の令和九年度に仙台市内に開校することを目指し、その実施設計を行う内容となっております。また、この新たな学校のコンセプトとして、不登校や中退を経験した生徒の学び直しをも考慮し、従来の学級というものは特に設けず、一人一人に丁寧に対応するチューター制度を導入するとともに、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどの配置も兼ね備えた学校を想定していると伺っております。この新たなタイプの学校については、令和二年七月の宮城県教育委員会で出された提案内容であり、現在の、ある意味画一的な県立学校とは一線を画し、生徒一人一人の実情と思いに寄り添うことを基本コンセプトとしており、学びの保障、そして生徒の自主性を磨くといった点では大いに期待するところであります。神奈川県や広島県など、こうした取組が行われている自治体が幾つかあるようですが、生徒の自主性にしっかりと寄り添い、将来の自身の社会人への道を着実に確立していく能動的な教育カリキュラムは、高校教育にどんどん取り入れていくべきと考えており、まずはこのｉｄｅａｌスクールの成果に期待するところでもあります。令和二年の教育委員会内での提案から、今回予算化するに至ったこれまでの経緯についてまずはお伺いします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長　令和二年七月に策定した第三期県立高校将来構想第一次実施計画におきまして、生徒の興味・関心、進路希望の多様化や、様々な背景を抱えた生徒の増加を背景として、新たなタイプの学校の設置について検討することとしたものであります。その後、県立高等学校将来構想審議会などにも意見を聞きながら、教育内容や支援体制、学校の位置づけ及び規模等を具体化しながら検討を進めてまいりました。このたび、ｉｄｅａｌスクールの概要が固まったことから、予算化をお願いするものであります。

○吉川寛康委員　不登校出現率が高い本県の現状などを勘案すると、さきにも述べたとおり、生徒の学びを保障し、同時に生徒の自主性を伸長させる高校教育の実践は大いに

評価するところであり、期待するところでもあります。一方、新たな取組でもあるため、県内の児童・生徒やその保護者などにもしっかりと広く情報発信され、高校教育の選択肢の一つとして正しく認識してもらうことが重要であり、今後の開校に向け、学び直しを考えている生徒も含め、しっかりと周知を徹底していく必要があると考えます。三年後の令和九年度の開校に向け、県内の中学生やその保護者に対するｉｄｅａｌスクールの今後の周知を含めた取組についての御所見をお伺いします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長　現在、ｉｄｅａｌスクールの教育内容の詳細や募集方法等について検討を進めているところであります。今年度は、宮城広瀬高等学校の学校説明会において、ｉｄｅａｌスクールの概要を説明したほか、近隣の中学校を訪問し、中学校の教員に対して、学校のコンセプトを理解していただけるよう説明しているところであります。ｉｄｅａｌスクールの学校説明会は、来年の秋頃に開催を予定しており、開校前年の令和八年度には、複数回開催するとともに、リーフレット等様々なメディアを通じて広く情報提供に努め、より多くの中学生や保護者等に理解していただけるようにしたいというふうに考えてございます。

○吉川寛康委員　このｉｄｅａｌスクールの大きな特徴の一つとして、従来のような学級を設けることなく、チューター制度が導入されることが挙げられます。このチューター制度とは、マンツーマンを基本に身近な頼れる人を配置し、個々人をそれぞれフォローする体制を示しており、近年、民間企業にも多く取り入れられております。このチューター制度の導入により、個人の個別事情や多様性にも配慮でき、それぞれの自己表現をしっかりフォローできることなどから、従来の学級単位による画一的な集団指導よりきめ細やかな対応が可能であると同時に、一人一人の個性を生かし、向上心をより促進できる大きな効果が期待されております。このｉｄｅａｌスクールのチューターは、基本的には学校の先生だけで対応されるというふうに想定しておりますけれども、このチューターとしての果たす役割は極めて重要であるため、しっかりとその役割が果たせるチューターを育成していく必要があると考えております。三年後の開校を目指し、今回導入を検討しているチューターについて、必要とする様々なスキルも含め、県教委としての具体の養成方針についての御所見をお伺いします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長　ｉｄｅａｌスクールの特徴であるチューター制は、一人

の教員が十七、十八人の生徒を受け持ち、生徒が意欲的、自律的に学べるよう日常的な学校生活や学習、進路相談等に対応し、きめ細かく支援することを想定しており、一人一人の生徒の声に耳を傾け、寄り添い、意欲を引き出すために必要な資質・能力の向上を図ることが重要であると考えております。そのため、現在、大学等と連携しながら、教員研修の内容を検討しており、教育相談や心理学等の大学の講義を受講できるよう調整しているところです。県教育委員会といたしましては、研修を受講した教員が校内で研修を行うなど、学校全体でスキル向上が図られるよう取組を進めてまいりたいと考えております。

○吉川寛康委員　加速的に進む少子化の流れと並行に、本県も含め、全国的に理系人材が不足している状況にあり、地域経済を支えるものづくり産業を担う将来のエンジニア養成は大きな課題の一つであると考えております。また、この少子化の進展により、生徒数そのものが減少していく中にあっての理系人材不足ですので、今後将来の技術系人材確保は喫緊の課題であり、教育庁のみならず部局横断で取り組むべき大きな課題であるとも考えております。今回のｉｄｅａｌスクールは、全日制普通科を想定しておりますが、今後の理系人材育成の観点からも、電気科や機械科などの技術系学科への拡大も検討していくべきと考えますが、いかがでしょうか。御所見をお伺いします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長　今後見込まれる急速な少子化の中で、県立高校において、ものづくり産業をはじめとした各産業分野の学びを確保し、地域産業を支える人材の育成を図っていくことは、重要な課題であると認識しており、現在、県立高等学校将来構想審議会において、産業教育の在り方についても検討しているところであります。工業科などの技術系学科は、実習を伴う専門科目等の必履修科目が多いため、ｉｄｅａｌスクールのフレキシブルな学びをそのまま導入することには課題もありますが、一人一人の生徒の興味・関心や達成度に応じた学びの支援を行い、生徒が意欲的、自律的に学べるような仕組みを取り入れられるよう、県立高等学校将来構想審議会の意見なども踏まえ、検討してまいりたいというふうに考えております。

○吉川寛康委員　少子化の進展で、県内高校の生徒数の減少が更に加速していくことが想定される中、平成三十一年度からの第三期県立高校将来構想の中で、令和五年度には大河原商業高校と柴田農林高校を再編、大河原産業高校を新設しました。今後、令和七

年度には蔵王高校を白石高校に、一迫商業高校を築館高校にそれぞれ分校化し、令和九年度には松山高校と鹿島台商業高校、南郷高校を再編統合して、大崎地区に新たな職業教育拠点校を新設するなど、全日制公立高校の再編に向けた検討が進められております。今後、県内生徒数の減少が加速的に進んでいく中にあって、県立高校の更なる再編が検討されていくことになると思いますが、高校の統廃合だけではなく、生徒目線に立った魅力ある県立高校を整備していく観点からも、このｉｄｅａｌスクールの更なる整備も選択肢の一つとして検証していくべきと考えますが、いかがでしょうか。各圏域へのｉｄｅａｌスクール設置の方向性も含めての御所見をお伺いします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長　生徒の学習ニーズや進路希望が多様化する中、県立高校は、これまで以上に魅力を高めていく必要があると認識しております。ｉｄｅａｌスクールについては、他の地域においても同様のニーズがあるものと考えており、ｉｄｅａｌスクールの機能を持った学校を他の圏域に設置することについて、県立高等学校将来構想審議会において検討していく予定としております。県教育委員会としては、令和九年度のｉｄｅａｌスクールの開設に向けて、中学生や保護者等への周知のほか、教育内容等を詳細に検討するなど、しっかりと準備を進めていくとともに、魅力ある県立高校の在り方について、様々な観点から検討を進めてまいります。

○吉川寛康委員　終わります。どうもありがとうございました。